～歴史ツーリズム～ 風薫る 日向往還のくびんりマップ

くまもと Kumamoto

日向往還歴史ウォーク 毎年3月開催！

鎌倉・室町・江戸・明治、肥後と日向を往き還りした古道！故きを温ねて新しきを知る歴史探訪ウォーキング。

日向往還歴史ウォークは、歴史をたどり、石橋や日本の原風景に心を癒すウォークラリーで、御船町から山都町までの沿線を舞台として実施しています。肥後の国と日向の国を繋いだ古の街道を、ご家族やお友達と一緒に歩いてみませんか！

ウォーキングアドバイス

- ●かかとから足を踏み出し、歩幅は大きめにとりましょう。
- ●かかとから着地して、つま先で地面をけるように、軽やかな気持ちで足を前へ出しましょう。
- ●山林を通ることもありますので、安全のためになるべく複数で歩きましょう。

※分かりにくい場所もありますので、できれば案内人同行をお勧めします。

ガイド情報

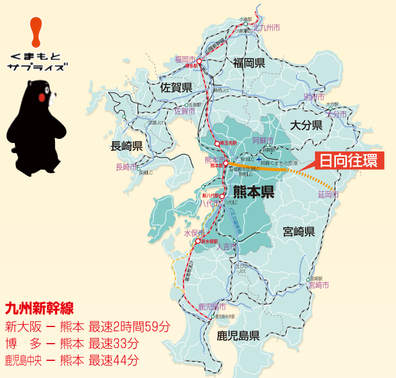
山都町かたりべ会
問合せ先:090-5928-7389（事務局）

馬見原街づくり協議会
問合せ先:0967-83-0032

風そよぐふるさとの緑の中を、今なお残る石橋や歴史遺産、県内にはここだけの文楽鑑賞の他、大自然のなかの滝や渓谷をご案内します。お気軽にご相談ください。

日向往還顕彰会

日向往還の豊かな歴史と文化を守り後世に伝えるため、郷土史家の方々を中心にウォーキング愛好家の皆さんで構成。歴史に興味をお持ちの方、自然の中で散策を楽しみたい方は是非お尋ねください。
問合せ先:0967-72-3855
（山都町観光協会）



※ガイドの要望や料金などについては下記へお問合せください。

高速道路利用の場合

- ■ 太宰府 I.C～益城熊本空港 I.C…約1時間10分（96km）
- ■ 太宰府 I.C～御船 I.C…約1時間20分（103km）
- ■ 鹿児島 I.C～御船 I.C…約2時間（163km）
- ■ 宮　崎 I.C～御船 I.C…約2時間10分（174km）

公共交通機関

- ■ 熊本バス株式会社（甲佐営業所）:096-234-0369
- ■（矢部）有限会社まるはタクシー:0967-72-0325/0120-54-8108
- ■（矢部）第一タクシー株式会社:0967-72-0124/0120-72-0124
- ■（清和）有限会社清和タクシー:0967-82-2039
- ■（蘇陽）熊本バスタクシー株式会社:蘇陽営業所0967-83-0112
- ■（蘇陽）蘇陽観光タクシー:0967-83-1880

【発行】熊本県上益城地域振興局総務振興課 TEL:096-282-3044 FAX:096-282-2050
【協力】山都町観光協会 TEL:0967-72-3855 FAX:0967-72-3853 http://yamato-tour.org/
発行者:熊本県
所属:企画地域振興部企画課
発行年度:平成23年度

1 札の辻
熊本から各地への主要街道の起点。幕府、藩の法令を知らせる高札があった場所です。熊本城の下、清爽園にあります。日向往還もここから始まり、熊本市新町を通り、明八橋、長六橋を渡り御船口へ入ります。

2 御船口
木山へ向かう木山往還との分岐点で、商家や、商人宿が並び、荷馬車や大八車で道は賑わっていました。四つ角に建つ地蔵堂には放牛石仏と天神坐像が祀られています。堂下の道路脇に道標石があり、「右みふね　左きやま」とあります。

3 放牛地蔵
田迎小学校前にある「放牛地蔵」。父が無礼打ちになった鍛冶屋の息子が父の霊を弔おうと僧になり、名を放牛と改め、享保7～17年まで百体を越える石仏を各地に建立しました。この地蔵は、その第一号です。

4 六嘉神社（六嘉の獅子舞い）
県重要無形民俗文化財で、無病息災・五穀豊穣を祈願して、毎年10月に奉納されます。勇壮な獅子舞や高さ20mの杉柱に獅子が登り、牡丹の花が宙に舞う「棚登り」は圧巻で獅子が投げる花を拾うと縁起が良いといわれています。

5 六嘉湧水群・浮島
嘉島町には浮島をはじめ、いたる所に清冽な水が湧き、古来より「水の郷」として多くの人に親しまれてきました。豊富な水を湛える『六嘉湧水群・浮島』は平成の名水百選に選定されています。

6 浮島周辺水辺公園
嘉島町に数多くある湧水のうちでも最大の湧水地。1日13万トンもの水が湧き出しています。湖面に浮かぶ浮島熊野座神社は竜宮城のように見えることから「浮島さん」と呼ばれ、嘉島町のシンボルとして親しまれています。

7 五里木の跡碑
熊本の札の辻から五里（約20キロ）の地点に建てられた石碑。軍見坂を登りつめたところで、かつては松の木を植え五里木と称していました。晴れた日には遠くに有明海が眺望できる場所で、七滝見物に訪れた第12代肥後藩主の細川斉護（なりもり）も休憩したといいます。

8 八勢目鑑橋
今の八勢目鑑橋ができるまで、この地は日向往還最大の難所でした。木の橋は何度も洪水で流されるため、豪商であった林田能寛が私財を投げ打って造ったのが石造りの八勢目鑑橋です。桜の花が咲く頃は、花見客が訪れる憩いの場となっています。また、毎年開催されている「日向往還歴史ウォーク」のコースにもなっています。

9 八勢の石畳
八勢目鑑橋を渡るとすぐ見事な石畳があります。幅4mの石畳で石段が150段あり、約500m続いています。西南戦争の際、敗走する薩軍もここを通りました。

八勢目鑑橋

コラム A 足手荒神の由来
上六嘉にある甲斐神社のこと。祭主は御船城主だった甲斐宗運・宗立。佐々成政との戦で手足に深傷を負った宗立が、自分をかくまい手厚い看病をしてくれた村人たちに感謝し、「死後、手足の病苦の守り神とならん」と言い残して果てたとの伝説があり、手足の病にご利益があると信仰を集めています。

コラム B 清正公指揮所跡記念碑（八龍の塘）
熊本城完成後、慶長12年に加藤清正は、この一帯の河川を大幅に改修しました。それは御船川と緑川を合流させる大事業で、堤防を築くたびに、八つの頭をもった龍が川を横切って荒れ狂い堤防を壊します。そこで、清正が龍神を祀るための祠を建てたところ、龍神の怒りは静まり、工事は成功したという伝説が残っており、清正公指揮所跡の石碑が土手の上に建っています。

コラム C 鼎春園
幕末、尊皇攘夷運動に奔走した宮部鼎蔵は、御船町上野茶屋元に生まれ、30歳で藩の兵学師範に取り立てられ、長州の吉田松陰とも親交が厚く、二人で東北諸藩を遊歴したりしています。1864年、京都「池田屋」で新撰組に襲われ自刃しました。享年45歳。御船町上野茶屋元には、宮部鼎蔵生家跡に鼎蔵の産湯に使った井戸や、鼎蔵と弟の春蔵の二人の名を一字ずつとった公園「鼎春園」があり、園内に顕彰碑と宮部鼎蔵の銅像が建立されています。

11 千人塚
「妙法千人乃霊魂碑」の刻碑があります。天正13年（1585）島津氏が矢部に侵攻した時の古戦場と言われています。また、小西行長が攻めてきた時の戦場跡とも言われています。

12 金内橋
町指定文化財である金内橋は嘉永三年（1850）に布田保之助によって架橋されました。長さ31m、幅5.5m、高さ7.4m。明治10年西南戦争では、官軍・薩軍ともにここで休息をとったと伝えられています。

13 延寿桜
第10代細川斉茲（なりしげ）が文化14年（1817）間谷山（まんたに）に狩に来て、休息した際のお手植えの桜です。現在は3代目といわれ、延寿桜の謂曲も伝わり、町指定文化財に登録されています。また、ここには御成りの間もあったとされています。

布田保之助
代々惣庄屋であった家系の長男として生まれました。惣庄屋を継いだ後、道路の改修、建設をはじめ、聖橋、立野橋、金内橋など14の石橋を造りました。水のない白糸台地へ水を送る通潤橋建設のリーダーとして活躍し、嘉永7年（1854年）に、僅か2年足らずで通潤橋を完成させました。

14 通潤橋
布田保之助が水不足に苦しむ白糸台地の灌漑用水として建設した、日本最大級の石造りアーチ水道橋（国指定重要文化財）。肥後の石工の技術の結晶ともいえる橋で、豪快な放水が見ものです。周辺には、通潤橋史料館や物産館のほか落差50mの五老ヶ滝や吊り橋などもあります。

八朔祭
江戸時代から始まったといわれ、毎年旧暦の八朔の日（現在は9月の第1土・日曜日）に行われる田の神への豊作祈願祭です。各町内ごとに趣向をこらした巨大な造り物の引き廻しは、多くの見物客を楽しませてくれます。

元禄・嘉永井手
元禄井手の水不足を補強するため開削された嘉永井手。総延長28キロ、受益面積は300ヘクタールに及びます。
吉無田水源より取水した元禄井手の下流と、山都町、大矢野原の三渓流を合わせて873メートルのトンネルを貫流して豊かな水を引きました。この労役に苦しんだ村人たちの功績がしのばれます。

19 赤子谷の石畳
石畳が幅1.7m、長さ120mにわたって残っており、山鳩の鳴く声が赤子の声に似ていることからその名がついたと伝わります。

D 鬼の巡り石
高さ3m、幅2mの巨石が台石に載っています。大晦日、鬼が来てこの石を廻すという言い伝えがあり、この台石に小石を投げて載ると恋が叶うと言われています。

日向往還 WCトイレ 身障者用トイレ P駐車場 ビューポイント

日向往還ルート

里程約三十四里（136km）／一里：3，927m

熊本 → 春竹 → 田迎 → 鮏 → 御船 → 木倉 → 北中島 → 水田尾 → 浜町 → 小峯 → 馬見原 → 鏡山峠 → 芝原 → 三田井 → 延岡

モデルコース

Aコース 歴史道をゆっくり散策コース（10km 約3時間）※熊本バス:七滝、金内停留所利用

鼎春園 → 八勢目鑑橋 → 八勢石畳 → 赤子谷の石畳 → 鬼の巡り石 → 金内橋

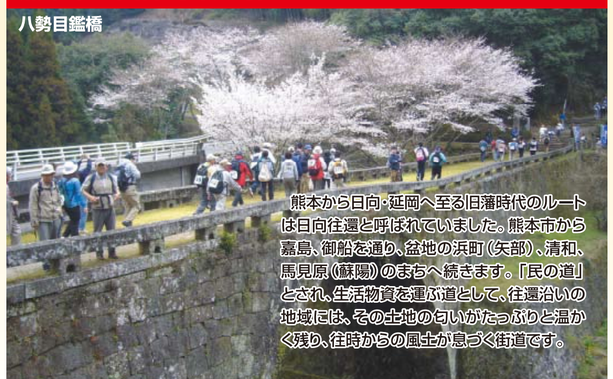
Bコース 浜町歴史散策コース（8km 約3時間）※熊本バス:浜町営業所利用

通潤橋 → 浜の館 → 備前屋（現通潤酒造） → 浜町商店街 → 通潤橋

熊本交通センター …… 七滝（約1時間）
熊本交通センター …… 金内（約1時間15分）
熊本交通センター …… 浜町（約1時間25分）

熊本バス熊本中央営業所 096-378-3447　熊本バス http://www.kuma-bus.co.jp/

熊本市～山都町（浜町）


八勢目鑑橋

熊本から日向・延岡へ至る旧藩時代のルートは日向往還と呼ばれていました。熊本市から嘉島、御船を通り、益城の浜町（矢部）、清和、馬見原（蘇陽）のまちへ続きます。「民の道」とされ、生活物資を運ぶ道として、往還沿いの地域には、その土地の匂いがたっぷりと温かく残り、往時からの風土が息づく街道です。